

2006年11月24日

国土交通省河川局長 門松 武 様
関東地方整備局長 中島 威夫 様

利根川流域市民委員会
共同代表 佐野郷美（利根川江戸川流域ネットワーク）
嶋津暉之（水源開発問題全国連絡会）
吉田正人（江戸川大学教授）

連絡先 深澤洋子 TEL&FAX 042-341-7524
高橋盛男 TEL&FAX 047-367-2857

**利根川水系河川整備計画の策定に関して
住民を軽視する時代錯誤の方針を示した
国土交通省に対して強く抗議する**

関東地方整備局は11月22日に「利根川水系河川整備計画の策定に係る学識者等からの意見聴取について」を公表しました。その内容は私たちが設置を求めていた住民参加型の流域委員会とはまったく異なる、国交省のみの判断で選んだ学識者の会議（有識者会議）を利根川・江戸川等に設置するものであって、しかも、住民の意見聴取は公聴会のみであるとするものでした。住民は意見を聴くだけであって、計画の是非に関する議論の場には一切参加させないとする、住民を軽視した時代錯誤の方針を国土交通省が示したことに對して強く抗議します。

今年10月には国土交通省は、住民参加型の流域委員会のモデルというべき淀川水系流域委員会を休止すると発表し、今までの流れを180度変える方向を示しました。今回の利根川水系に関する国土交通省の方針はこの淀川水系についての発表と軌を一にするものであり、国土交通省が河川法改正前の旧態依然たる姿勢に舞い戻ってしまったことを表しています。

1997年の河川法改正の趣旨における重要な柱の一つは、住民と十分な意見交換をしながら、よりよい河川整備のあり方を住民とともに考えていくことにありましたが、現在の国土交通省は住民の意見を意図的に無視しようとしています。その理由は、国土交通省が10年前までと同様に大規模河川事業の推進を自己目的化し、その推進に異論を唱える意見を排除しようとしているからに他なりません。利根川水系では別記のとおり、多くの大規模河川事業があり、それらを何が何でも推進するために、国土交通省は住民を軽視する時代錯誤の方針を示したのです。

私たちは今回の国土交通省の発表に對して強く抗議するとともに、利根川水系流域委員会を設置し、河川管理者が学識経験者だけでなく流域住民を交えて、河川整備の内容および大規模河川事業の是非を議論する機会を作ることを改めて要求します。

別記 利根川水系における大規模河川事業

ハツ場ダム

吾妻川に建設予定の多目的ダム（総貯水容量 10,750 万m³）
現在、付替道路、付替鉄道、代替地造成などの関連工事が行われている。
（建設事業費 4,600 億円、水特法事業と基金事業を除く。）

思川開発（南摩ダム）

思川の支川 南摩川に建設予定の多目的ダム（総貯水容量 5,100 万m³）（黒川と大芦川から導水）
現在、水没予定地の取得が進められ、付替県道の工事が始められようとしている
（建設事業費 1,850 億円、水特法事業と基金事業を除く。）

湯西川ダム

鬼怒川の支川 湯西川に建設予定の多目的ダム（総貯水容量 7,500 万m³）
現在、付替道路、代替地造成などの関連工事が行われている。
（建設事業費 1,840 億円、水特法事業と基金事業を除く。）

渡良瀬遊水池の大規模掘削事業

渡良瀬遊水池は 17,180 万m³ の洪水調節容量を持つ洪水調節池であるが、この洪水調節容量を 500 万m³ 以上増やすための大規模掘削事業が計画されている。

稲戸井調節池の大規模掘削事業

稲戸井調節池の洪水調節容量を増やすための大規模掘削事業が計画されている。
（1,890 万m³ 3,080 万m³）

烏川の河道内遊水池

2006 年 2 月策定の利根川水系河川整備基本方針によって、烏川の河道内に遊水池を建設することになったため、現在、国の直轄区間で遊水池建設計画が検討されている。

利根川中流部右岸の堤防強化対策事業（深谷市から五霞町まで）

利根川中流部右岸の堤防を強化堤防（川裏の勾配 1:7）にするための堤防強化対策事業が計画されている。（首都圏氾濫区域堤防強化対策事業）
（移転戸数 約 860 戸、栗橋町だけで 270 戸、総事業費 1,300 億円）

印旛沼を使う利根川放水路計画

2006 年 2 月に策定された利根川水系河川整備基本方針では、戦前からあった旧利根川放水路計画はなくなり 代わりに新しい利根川放水路計画が入った。これは、利根川下流部の洪水 10,500m³ / 秒のうちの 1,000m³ / 秒を、印旛沼を経由して、東京湾に落とすものである。

（この計画を実現するためには、印旛沼の大規模掘削、大水路の開削などが必要である。）

霞ヶ浦導水事業

那珂川と霞ヶ浦を結ぶ導水路（那珂導水路） 霞ヶ浦と利根川を結ぶ導水路（利根導水路）を建設する事業で、目的は都市用水の開発、霞ヶ浦の水質浄化などである。
（建設事業費 1,900 億円）

利根導水路は 1989 年に完成したが、霞ヶ浦から利根川への試験通水によって、漁業被害が起きたため、未だに使われていない。）

利根川流域図

利根川の流域面積
 (本川の道筋延長 322km)

利根川流域全域		流域面積 (km ²)
主な地点	岩本(群馬県沼田市)	16,340
	八斗島(群馬県伊勢崎市)	1,692
	利根大堰(埼玉県行田市)	5,190
	栗積(埼玉県栗積町)	6,018
	栗積(埼玉県栗積町)	8,586
主な支川	布川(茨城県利根町)	12,458
	利根川河口堰(千葉県重宝町)	13,627
	吾妻川	1,366
	烏川(神流川、鶴川、陣水川を含む)	1,800
	渡良瀬川(荒川を含む)	2,621
	江戸川	200
	鬼怒川	1,760
	小貝川	1,043
	霞ヶ浦	2,157

